

		こ	そ	あ	ど
だいいいし 代名詞	もの	これ	それ	あれ	どれ
	ばしょ 場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
+ N	しゅうしょく めいし げんてい 修飾する名詞を限定	このN	そのN	あのN	どのN
	しゅうしょく めいし ぞくせい じょうたい 修飾する名詞の属性(状態)	こんなN	そんなN	あんなN	どんなN
ほうこう 方向		こちら	そちら	あちら	どちら
		こっち	そっち	あっち	どっち
ほうほう 方法		こう	そう	ああ	どう

基 本

例 文

- ① 去年の12月7日に日本へ来ました。その日はとても寒い日でした。
- ② 先月、北海道の札幌へ行きました。そこで雪祭りを見ました。
- ③ A: 田中一郎さんという人から電話がありましたよ。
B: えっ? そんな人知りません。
- ④ A: かさじぞうという昔話を知っていますか。
B: いいえ、その昔話はどんな話ですか。
- ⑤ A: 先週見たあの映画、おもしろかったですね。
B: ええ、もう一度見たいですね。
- ⑥ (歴史館で江戸時代の説明を聞きながら)
A: あのう、この時代にはもう電気がありましたか。
B: いいえ、電気はまだありませんでした。この時代にはランプやろうそくを使っていました。

- A. 「こそあ」は、会話や文章の中で、すでに話題として出たことを指す場合に使う。(例文①～⑥)
- B. 「こそあ」は、聞き手と話し手が会話で話題として出たことを知っているかどうかで使い方が違う。

	つか 使うとき
「そ」グループ	<p>話し手は話題に出ていることを知っているが、聞き手は知らないと思っていると き。(例文①②)</p> <p>話し手が会話の相手が話題として出したことを知らないとき。(例文③④)</p>
「あ」グループ	<p>話し手と聞き手の両方が話題に出ていることを知っているとき。(例文⑤)</p>
「こ」グループ	<p>話し手が話題に出ていることを知っているとき。(例文⑥)</p>

先生へ

発展形として、次のようなことばがある。

例 この : このような、このように

こんな : こんなに、こんなふうに

こう : こういう、こういうふうに、こうして

「こ」グループは、ある話題を最初に出した人だけが使える。

「こそあ」には、実際に話している場面で、そこにあるものなど目で見ることができることを指す用法もある。(p.24 29参照)

A. の用法は、初級レベルでも会話や読みものなどに出てくるが、「こそあ」の使い分けがむずかしいので、会話や読みものの内容理解を間違えないように指導する程度にしたほうがよい。

【関連項目】

- 語-02 これ / それ / あれ
語-03 この / その / あの
語-04 ここ / そこ / あそこ

【「れんしゅう編」の練習】

16-5 すずめのお宿